被災地派遣レポート＜第８回＞

財務局経理部企画担当課長　鈴木　光祐さん

■被災地へ

福島県派遣第１陣は、５月１５日（日）から５月２３日(月)までの日程で、南相馬市「南相馬市役所」において、被災者の所在情報集約のためのデータ入力作業等を行うため支援に向かった。

派遣職員は、財務・主税・都市整備・福祉保健・産業労働・建設・交通・水道・下水道局、教育庁からなる１０名の班である。

５月１５日午後、東京駅から新幹線で福島駅に向かい、駅到着後、被災地支援福島県事務所の職員と合流し、被災地支援県事務所長からの注意事項等のガイダンスを受けたのち、福島市内で一泊する。

翌朝、レンタカーに分乗し、被災地支援県事務所職員らとともに南相馬市に向った。

福島市内から南相馬市までは約６０ｋｍ、途中、川俣町、飯舘村を走りぬけながら、１０時２５分、南相馬市役所に到着。南相馬市役所は地震による役所機能の移転等はまぬがれたものの、震災後２か月以上を経っても、まだ応急対応が続いている状況であった。

到着後、庁舎２階の災害対策本部・会議室において、副市長から「事務支援の協力を願う。」旨のあいさつをいただき、市職員からのガイダンスを受けた後、午後１時、市役所のバスに乗り込み、福島第一原子力発電所から半径２０ｋｍから３０ｋｍ圏内沿岸部を北上するかたちで視察が行われた。目に飛び込んでくる光景は、津波により集落・漁港・施設等は全壊・消滅し、車やトラクターは津波に流されボールのように丸くなっていた。また、漁港から３ｋｍ以上も流された大小の漁船など、想像を越す津波被害と自然の力をまざまざと見せつけられ、心が痛む思いであった。

視察から戻り、市役所内で２３日までのデータ入力作業が始まった。

■東日本大震災における南相馬市の現状

南相馬市の震災は、地震・津波・原発事故と、いまもなお応急対応そのものが継続中である。

津波は沿岸から約３ｋｍ以上まで上っている。

また、福島第一原子力発電所の事故を受け、南相馬市内には「警戒区域」「計画的避難区域」「緊急時避難準備区域」が設定され、２０ｋｍ圏内住民はもとより、多くの住民が市外に避難している状況である。

避難されている住民の多くは、群馬県片品村・草津市・東吾妻町、新潟県長岡市・上越市・三条市・小千谷市等に市が用意したバスで集団避難するとともに、全国各地の避難施設等へ自主的に避難している状況である。

地震直後は、人口約７万１千人のいる市民の内、約５万人近くが避難し、街の中は人影もなく、車は全く走っていない状況だったそうだ。

現在は、津波の被害を受けなかった地域の電気・ガス・水道が使えること、徐々に小売店・コンビニ等が再開してきていることから、一時的に避難した住民が戻りつつあり、人口は４万人から５万人程度に増えてきていると見込まれる。

■任務の内容

今回の任務は、震災後、所在が不明となっている被災者の安否情報等をデータ入力する作業である。

私たちは、市役所まで徒歩で５分程の宿舎から毎朝８時過ぎ、まとまって市役所へ向かい、市役所３階にある情報政策課と市長公室の２箇所に分かれ、入力作業を行った。

市職員担当者からの説明によると、避難者情報は、震災直後、各避難所で壁紙に避難者自ら記載する方法で対応していたが、震災後１週間程度でインターネットが復旧し、市のＨＰが利用できるようになったことから、壁紙の内容をパソコンに入力し、この情報を安否情報として市のＨＰに掲載した。

その後は、原発事故により集団避難となるなか、市の指定避難所や自主避難所より送付された名簿と、自主的に知人親戚を頼り避難した市民の安否情報を入力してきた。

しかし、南相馬市は規模が大きいことや、津波や原発事故の影響で避難者が多く、避難者の２次移動等が始まっていることから、市としては所在不明となっている１３，４７９名（５月１５日現在）の安否情報確認を早急に進めたいとのことだった。

主な入力作業は、①国、県の避難情報システムから送られてくる安否確認情報、②３０ｋｍ圏外へ転校となっている児童・生徒等の区域外就学情報（福島第一原子力発電所から半径２０ｋｍ～３０ｋｍ圏に設定された「緊急時避難準備区域」内にある小中学校等は、現在も休校等になっている。）、③避難所生活を余儀なくされた住民のアンケート結果情報、④２０ｋｍ圏内一時立ち入り住民情報、⑤借り上げ住宅申込情報、⑥県内外へ避難している住民の避難施設受入れ状況調査などであった。

これら入力作業は多義に渡ることから数名に分かれ、一日黙々とパソコンに向い作業を行った。

休憩等は各自の判断で行うことにしたが、逆に市職員の方から、少しは休憩してくださいと心遣いをいただくほどだった。メンバー全員の積極的に取り組む姿勢、集中力、責任感は、市職員から高い評価をいただいたと思う。

所在不明者は、１６日からの入力作業等の結果、５月２２日現在で９，９３４名と１万人を切ることができた。確認作業は大幅に進み、当初予定していた第１陣の業務内容は大幅にクリアすることとなった。

■現地の任務を終えて

５月２３日午後１時半、第２陣が南相馬市役所へ到着。災害対策本部・会議室において、副市長ら市幹部職員の出席のもと、第１、第２陣の離着任式を執り行っていただいた。

副市長からは「第１陣の皆様のおかげで、計画をはるかに上回る成果が出ていることに感謝する。」という、私たちにとってはとてもありがたい言葉を頂戴し、班員一人ひとり、任務をやり遂げた充実感・達成感に満ち溢れる思いであった。

その後、第２陣との引き継ぎを行うが、引継ぎは、少しでも市職員担当者の負担をかけないようにと、事前に班員が入力作業マニュアル書等を工夫しながら作成し、限られた時間の中で、スムーズに引継ぎを行った。

私たち第１陣は、現地の被災状況や市役所内で市職員と机を並べながら一緒に仕事をする中で、短期間ではあったが、この未曾有の惨禍の中、被災地住民のつらさや不便さ、そして現在も続いている応急対応と復旧対策に日夜奔走されている市職員の人たちの大変なご苦労を感じながら、１分１秒無駄にできない思いと、これまで電力供給をいただいていた恩返の気持ちで取り組み、少しでも南相馬市の住民・職員のために役立ちたいという気概で臨んだ９日間であったと思う。そして、一日も早い復興を願わずにはいられない思いを抱きながら、南相馬市を後にしたところである。

９日間にわたり、慣れない環境の中で、支援への強い決意を持って任務に当たった班員の皆さん、大変お疲れさまでした。また、班員の皆さんには、被災地の方々のことを心に留めながら、この経験を是非、今後の仕事に役立てていただきたいと思う。

最後に、私たちの任務にあたり、ご指導等をいただいた南相馬市の職員の皆様、活動を影から支えてくれた、総務局被災地支援福島県事務所、被災地支援対策課の方々に感謝し、福島第１陣の活動報告とする。